

「水と生活」資料館はこんな姿

昭和64年11月開館予定

資料館は和風建築様式

資料館の建設地は南後谷七六三番地五〇で、敷地面積は約二千八百三十平方メートルです。

建物は、鉄筋コンクリート造り日本から、緑青風鋼板一文字ぶき三階建て、建築延べ面積は約二千四百八十八平方メートル（一階約九百九十九平方メートル、二階約七百七十平方メートル、三階約四百六十九平方メートル）になる予定です。

また、同敷地内にある明治九年に建築された民家（床面積二百三十六平方メートル・藤波通子氏寄贈）も復元保存し、資料館の一部とします。

なお、資料館の外観は、この民家と調和させて和風建築様式にしました。

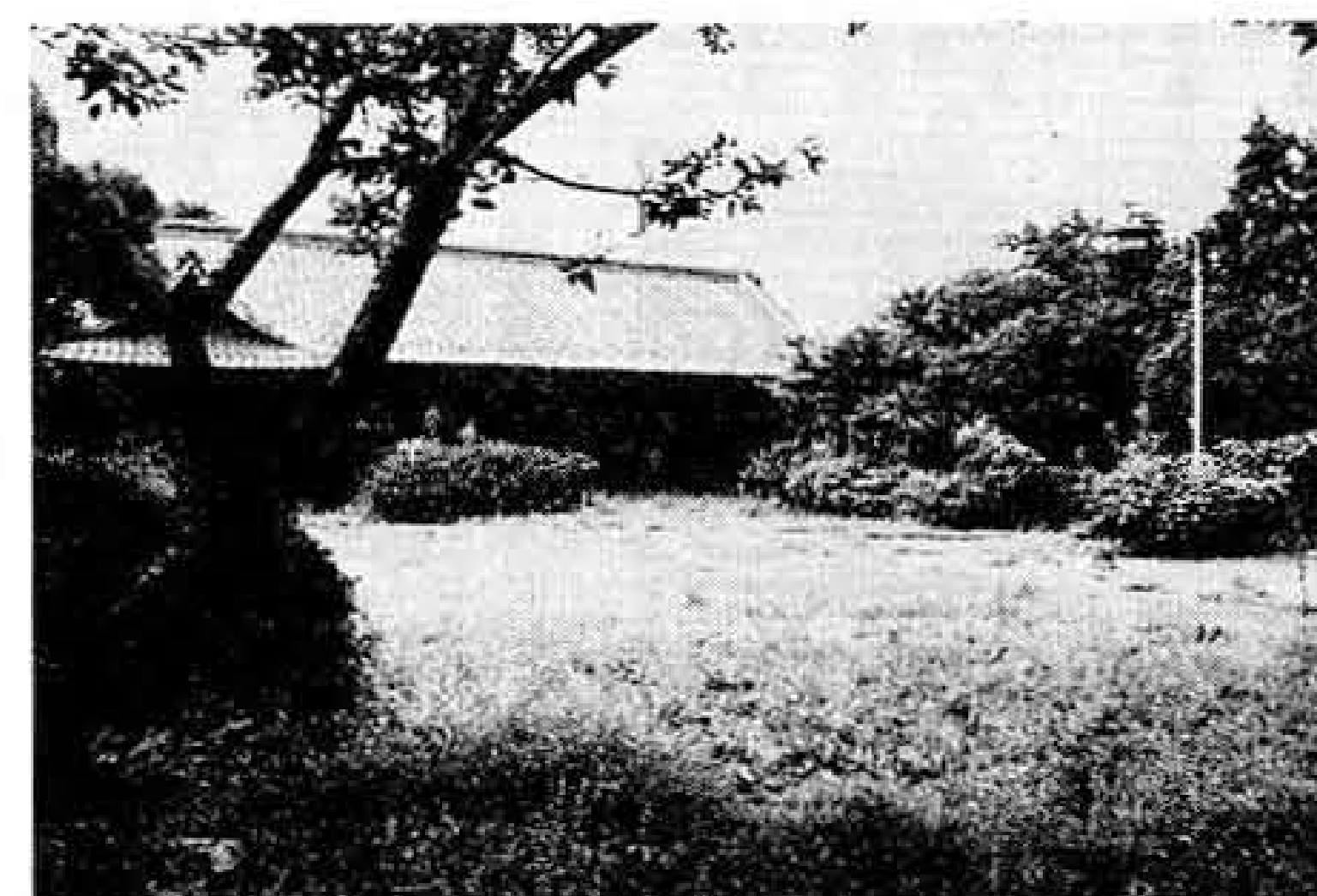
「水と生活」が

メインテーマ

それでは建物内部を見てみましょう。

◆本館一階

地域文献や資料を収蔵し、資料



資料館建設予定地と同館の一部となる民家

の閲覧や地域研究及び学習ができるコミュニティフロアーです。主な施設は次のとおりです。

閲覧室 資料、地域文献、歴史地理、図書などを活用・閲覧し、地域学習ができます。

学習室 館主催の講座及びサークルの体験学習や作業を盛り込んだ研修ができます。

◆本館二階

市の歴史、地場産業の発展などが、資料や視聴覚をととして理解できる資料観察フロアーです。主な施設は次のとおりです。

◆本館三階

地域の文化遺産を保存する資料保存フロアーです。主な施設は次のとおりです。

文書保存庫 古文書・行政文書などを保存する部屋です。

特別収蔵庫 美術品、貴重品、衣類などの収蔵施設です。

◆民家

石臼や陶器、家具、調度品、農具などの民俗資料を展示し、八潮市民の昔の生活をしのぶことができます。

◆館外

庭の南側にミニ農園を設け、最近栽培例が少なくなった綿やペニバナなどを作付けし、工芸作物が観察できるようにする予定です。

市史編さん事業の刊行物

私たちが伝承してきた文化遺産も急速な都市化と生活の近代化によって次第に失われていきます。市ではその貴重な資料を収集・整理し、保存しようとして昭和五十年に市史編さん事業を始めました。その事業もほぼ完成に近づきましたので、ここでは市が発刊した書籍二十八巻を八潮市史の本編、調査報告書、研究報告書の三種に分け紹介します。もちろんこれらの書籍は資料館に収められます。

八潮市史本編

史料編別巻（潮止月報・八潮だより） 大正十年から昭和四十年に至る青年団報「潮止月報」、広報「潮止月報」・「八潮だより」を収載

史料編近代Ⅰ 市域に伝存する明治期の史料を中心に収載

史料編近代Ⅱ 大正元年から昭和二十年までの地域社会の変動を著す史料を収載

史料編近代Ⅲ 明治・大正・昭和期の「村誌」・「社寺明細帳」・「学校沿革誌」と郷土資料集、日露戦役史、産業組合誌などを収載

史料編近代Ⅳ 地域の近世期の特長性を表す水利・舟運・鷹場・農閑余業などの史料を収載

史料編近代Ⅴ 八潮領の大惣代小沢豊功が執筆した地誌・記録・絵図類を収載

史料編近代Ⅵ 都市近郊農村の都市化の過程を史料化

民俗編 聞き取りした民俗事象を

街の声・私の一言

親しまれ活用される施設に

小中学校の社会科では、三年生から地域学習をしています。地域の歴史や産業・文化を知ることが郷土を愛することにつながります。そこで子供たちにも市民にも親しまれ、活用される総合的な資料館にしたいと思っています。

具体的には、子供たちが実際に手を触れ実技できるコーナーを設置したり、係員を置いて説明や実技指導などをしていただけたらと思います。資料の解説も具体的で分かりやすいものにしていただきたいと思います。



田中和也さん
(小作田)

今から楽しみに
今度、八潮市に資料館が立てられるというのを聞き、今から楽しみにしています。ふだん見られないような農機具などを実際に目で確かめられるし、また郷土の自然や歴史を知るうえで、私たち学生だけでなく市民みんなにとって大いに役立つ施設になると思います。



北住順子さん
(第二小教諭)

展示物の一部を紹介

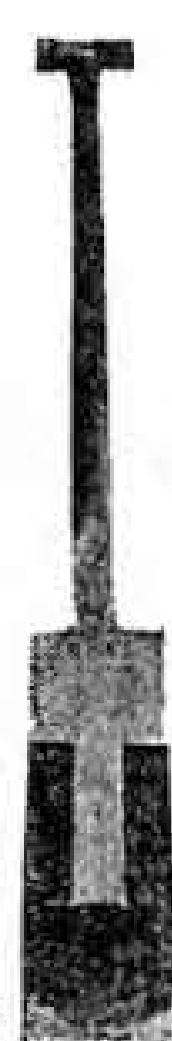


江戸時代末期の寺子屋
手習書「天元指南録」

鎌倉時代の板碑（塔婆）



中世の川船
に使った碇



古代の堅杵

